あけましておめでとうございます

小林哲夫

編集者は政治や宗教の話はしないほうがよいと教わった。今回は許して欲しい。

言葉は否応なくその人の意識を反映する。そのため沈黙する人は多い。しかし政治家は語ることが商売。しゃべればしゃべるほど，ボロが出る。心ある人はその卑劣さを指摘する。しかしなぜか支持率の下落はわずか。内田樹氏は，それを「今の日本は異常である」と語る。

日本だけではない。世界も異常だ。我々にとって最も大事な人である中村哲さんが銃撃された。

「異常」に満ちているこの世の中で，私たちはどう生きていけばよいのか。新しい年を迎えても，悩みは尽きない。

先日，新聞で「強い者より弱い者が生き残れる」という記事を読んだ。「生命の歴史を見ると，生き残っていくのは強い者，強者ではなく，変化に適応できる弱者，弱い者だ」と。

私の会社エディットもある意味で業界の弱者。出版業界の底辺に生息する。

弱者が生き残っていくためには何が大事か。記事は「集団力」「仲間」であり，仲間の思考や生き方，集団の多様性を知り，異常化する社会と闘いながら，変化する業界にしたたかにしなやかに適応する力を身につけることだと教えてくれる。

エディットも創立30年を迎えた。名古屋を拠点に東京・大阪オフィスも定着してきた。しかし相変わらずいろいろな壁にぶつかる。「異常」と言われる環境に立ち向かう「パワー」，さまざまな課題に前向きに取り込む新しい「適応力」こそ，いま求められている。

去年は何人かの親しい人が亡くなった。それも同年齢だったり，若かったりした友人だ。「明日は我が身」という思いが強くなる。

しかし嬉しかったこともある。長年の友人の本を出すことができた。タイトルは『共に生き，共に育つ』（ミネルヴァ書房）。障害児保育の現場から差別や偏見と闘ってきた彼の集大成の本といってよい。

私の暮らしは相変わらずだ。週の半分は東京行き。そのほとんどがAJEC（日本編集制作協会）関係。

しかしときどきは日常からの脱出をはかる。

メモを見ると，昨年はカンボジア・アンコールワットの旅から始まって，那須白川・会津若松，鳴門・淡路島，草津温泉，タイのプーケット，京都，箱根，ラグーナベイコート，大阪ユニバーサルスタジオ，郡上八幡・金沢・片山津・ホワイトロード，下呂温泉，湯田中・善光寺，二度目の金沢とある。

一人旅もあれば，知人との旅行もある。

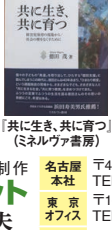
そういえば今年も社員旅行ができた。大井川鐵道のSLの旅・日本平久能山東照宮・三島スカイウォーク・浜名湖遊覧。

6回目の亥年も終わり，干支のスタート子年が始まる。世の中も業界もAJECもエディットも私もすべて新しく生まれ変わらなくてはいけない年だと思う。

こうした駄文を連ねる賀状も40年近くになる。目を通してもらう人にも申し訳ない。そろそろ終わりにしよう。

皆さんにとって，今年が少しでも心安らかな年になることを願って!

AJEC編集教室
―― 毎回100人の参加者に感謝



『共に生き、共に育つ』
（ミネルヴァ書房）

エディット社員旅行
―― 大井川鐵道・日本平の旅

アンコールワットの旅
―― 遺蹟より心に残る物乞い少女

企画・執筆・編集・制作
株式会社エディット
代表取締役　小林哲夫
http://www.edit-jp.com/

名古屋本社　〒451-0046 名古屋市西区牛島町5-2 名駅TKビル6F
TEL:052-586-0631（代）　FAX:052-586-0632
東京オフィス　〒162-0822 東京都新宿区下宮比町2-28 飯田橋ハイタウン727号
TEL:03-5225-0981（代）　FAX:03-3266-5072
大阪オフィス　〒541-0041 大阪市中央区北浜3-5-19 淀屋橋ホワイトビル606号
TEL:06-6208-0501（代）　FAX:06-6208-0502

（過去の賀状は：http://www.edit-jp.net/room/nenga.htmlにあります）